

令和4年度 教員免許取得者数

教科等	英 語		商 業	情 報	保健体育		養 護
校 種	中	高	高	高	中	高	—
免許取得者数	19 (21)	23 (25)	0	0	19 (19)	21 (21)	8 (13)

注：取得者数欄（ ）は、科目等履修生も含みます。

名桜大学 教員養成の目標（各教科）

英 語 中・高

・確実な言語知識を持ち、英語を積極的に運用する、国際教養人としての英語教諭の養成

地理歴史 R5年度新設

・「社会的な見方・考え方」についての幅広い知識を習得し、複雑化する現代社会を多元的な視点から教授できる実践力を持った地理歴史教諭の養成

商 業

・変化する社会経済の情勢を柔軟に取り込み、商業の理論と実践、幅広い教養を教授できる実践力をもった商業教諭の養成

保健体育 中・高

・スポーツ・健康・ウェルネスや保健体育科教育に関する知識・技能と実践的指導力を身につけた保健体育教諭の養成

養護教諭

・健康やスポーツ、ウェルネスに関する知識・技能をもとに、子どもの健康課題の解決に向けて「こころ」と「からだ」の両面から支援できる養護教諭の養成

情 報

・ITに関する幅広い教養とスキルを身につけ、高度情報社会を生きる人材を育てることのできる情報教諭の養成

～教員養成支援センターご利用案内～

利用時間＊平日（月曜日から金曜日）8：30～17：00 ※長期休業中も利用可能です！

休館日＊土曜日・日曜日・祝祭日 場所＊名桜大学 本部棟2F（教務課 隣）

教員養成支援センター TEL 0980-51-1560

- 教職の履修ってどうすればいいの？
- 教員採用試験の勉強がしたい！
- 教員免許取得に必要な資格は？
- 学生ボランティアに興味がある！
- 留学に行ったらどのくらいで教員免許取得できるか？
- 教育・養護実習について知りたい！

など、教職に関する質問や気になることがある学生、将来教員をめざす学生はぜひ教員養成支援センターにお越しください！！

教員養成支援センター

だより

第33号

2023年〇月〇日発行
編集・発行：名桜大学教員養成支援センター
所 在 地：沖縄県名護市字為又1220-1

「令和の日本型学校教育」を担う「学び続ける教師」をめざして

令和4年10月5日に中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会から、『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築～（中間まとめ）」が出ました。またこれに先立ち、令和3年11月15日には、『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて 審議まとめ 概要』が出ています。

この中で、「令和の日本型学校教育」を担う教師の学びの姿として、「学び続ける教師」というキーワードが挙げられています。

この学び続ける教師として挙げられているキーフレーズとしては、以下のものがあります（中教審の会議資料から）。

- ① 教師自ら主体的な学びのマネジメント
- ② 個別最適・協働的な教師の学び
- ③ 適切な目標設定と現状把握
- ④ 自らの経験や他者からの学ぶといった「現場経験」も含む学び

このことを実現するために、教育委員会や学校の管理職等は、

- (1) 研修機会の充実、研修内容・方法が適時見直される仕組み
- (2) 日常的なOJT、校内研修等の充実
- (3) 学びの成果の可視化と組織的共有
- (4) 管理職等のマネジメントの下での「協働的な職場づくり」や主体的・自律的な研修に向けた全校的な推進体制
- (5) 必ずしも主体性を有しない教師への対応（職務命令／人事上・指導上の措置）
- (6) 学校における働き方改革の推進の充実を目指しています。

また、大学としても、変化が激しく予測困難な時代に対応するための学習観・授業観の転換を担う教師の育成を目指すために、「児童生徒が自ら調整しながら粘り強く学習に取り組む過程を支援する視点に立ち、他者と協働しながら省察的实践に取り組み続けることを通じ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通じた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を先導する教師を育成すること」が求められております。

この実現はなかなかハードルが高いと考えられますが、このような教師の育成を目標に取り組んでいく必要がある訳です。

大学で教員養成のための勉強をして終わりではありません。学校現場においても、社会情勢の変化、学びのあり方の変化、教師の研修環境の変化やICT技術を活用したオンラインによる研修コンテンツの充実が挙げられています。

このため、教職を目指す皆さんも生徒に教えるためのスキルや人間性を磨くことはもちろんのこと、生涯学び続けるという心構えを持つことが大事となります。

これから教師を目指す皆さんには、このような学校を取り巻く政策動向にも注意して頂き、世の中で構築されていく研修プログラムや学習コンテンツを活用しながら、自ら主体的に学びつづけ教師の資質能力の向上に努めて頂ければと思います。

教師は、生徒の成長に大きな影響を与える存在です。この魅力ある職業を目指して頑張ってください。

国際学群情報システムズ専攻 教授
田邊 勝義

国際学群 語学教育専攻 4年生

藤本 太司（中学校英語教諭（和歌山県））（和歌山県立海南高等学校出身）

名桜大学の先生方や北部教員養成講座の講師の熱心なご指導により、この度は教員採用試験に現役で合格することができました。教員採用試験を受けようと考えている皆さんに、本稿が何某かの手助けになることを期して、以下に教員採用試験に向けて「やってよかったと思うこと」を記述します。

第1点目に、「自分がなぜ教員になりたいかを自問自答し続けること」です。志望動機は全ての原点です。自分が教員を目指した動機をもう一度振り返ることで、試験勉強に対するモチベーションの維持や面接練習にとっても役立ちました。

第2点目に、「自分なりの覚悟を持って試験勉強に取り組むこと」です。筆者にとっての覚悟は、今年で教員採用試験に合格できなければ、来年以降はもう受けないことでした。つまり、今年が教員になれる最後のチャンスだったので必死に勉強に取り組みました。自分なりの覚悟を持ち、退路を断つことで自分を最大限に追い込むことができました。

自分は一足先に教壇で待っています。周囲の人への感謝を忘れずに精一杯頑張ってください。



国際学群 国際学類 語学教育専攻 4年生

塩地 奎花（中学校英語教諭（大分県））（大分県立別府鶴見丘高等学校出身）

初めまして。今回は、なぜ教員採用試験に合格することができたのかについて、2点お話をさせていただきます。皆様のお役に立てれば幸いです。

1点目は、「先生方と仲間になりたい」という強い思いがあったからです。私は4年次に行った教育実習で、朝の挨拶活動から日々の授業づくりまで、常に生徒の事を一番に考えている先生方に会いました。この実習をきっかけに、今を生きるこどもたちの為に日々切磋琢磨する教職員の方々と仲間になって、生徒の為に行動できる教師になりたいという思いが溢れました。

2点目は、最初に教師になりたいと思った時の感情を大切にしたいからです。合格までの道のりは長く、苦しい場面が多くあります。挫折しそうな時は、なぜ自分が教師になりたいと感じたのかを思い出し、当時の自分の為にも頑張ろうと、最後まで試験に向けて取り組むことができました。

教員採用試験はとても大変ですが、友人や先生方を頼り、時には息抜きをしつつ、楽しみながら頑張ってください。



国際学群 語学教育専攻 4年生

中川 麻美（中学校英語教諭（鹿児島県））（鹿児島県 私立尚志館高校出身）

大学入学当時は、自分が教員を目指すことは考えておらず、漠然と英語に関わる職に就きたいと考えていました。しかし、大学で教職について学び、学習支援ボランティア、教育実習等で中学生や現場の先生と関わるにつれて、「教員になりたい」という気持ちが強くなりました。

特に、教育実習での経験から、「になりたい」ではなく、「なる」という決意に変わりました。教員採用試験を受験するにあたり、支えてくださった先生方や一緒に勉強した友人たちにとっても感謝しています。二次試験対策の時には、私の予定に合わせて早朝から英語ディベートの練習をしてくださった半嶺先生やゼミの仲間、帰省のためオンラインで面接対策をしてくださった新城先生への感謝は計り知れません。これからは、この感謝を忘れず、生徒から信頼される教員になれるように、精進していきます。



人間健康学部 スポーツ健康学科 4年生

尾首 朋佳（特別支援学校（中学部）保健体育教諭（広島県））（広島県立賀茂高等学校出身）

私は、教採対策に本腰を入れるのが遅く、直前まで不安で一杯でした。勉強不足で試験に間に合わないと感じ、何度も辞めようと思いました。しかし、最後まで頑張ることで、チャンスが巡ってくるかもしれないと思い、周りの力を借りながら何とか乗り切りました。皆さんの中にも、進路に焦りを感じている人がいると思います。迷いや戸惑いもあると思いますが、「とりあえずやってみよう！」という気持ちで少しずつ前進するのも良いかと思います。また、私が、今回の合格することが出来たのは、教員養成センターの方々、大学の先生方、教職の仲間のサポートのおかげです。特に、面接、模擬授業、実技がある2次試験に向けては沢山の方を頼り、支えて頂きました。これから、不安に押しつぶされる時もあるかと思いますが、皆さんの周りにも支えて下さる方がいると思います。一人で頑張るだけでなく、周りの力を借りながら目標に向けて頑張ってください。応援しています。



人間健康学部 スポーツ健康学科 4年生

吉松 夏央（養護教諭（鹿児島県））（鹿児島県立鹿屋高等学校出身）

私は、令和5年度鹿児島県公立学校教職員採用試験で養護教諭を受験し、合格することができました。大学3年生の10月頃から北部教員支援講座に通い、採用試験の勉強を本格的に始めました。日々の学校の授業や課題、実習等と試験勉強を両立することはとても大変でしたが、毎日のスケジュールを組み、計画的に勉強をすすめることを意識して取り組みました。気分が乗らない日は、勉強場所を変えてみたり、思い切ってドライブに行くなどリフレッシュも大切だと感じました。また、つらいときも励ましあいながら勉強を頑張った友人や、教員養成講座の講師の先生方、教職の先生方の支えがあって、最後まであきらめずに頑張ることができました。とても感謝しています。

これから受験を控えている皆さん、試験まで長い期間勉強を続けることはつらく、大変なことも多いと思いますが、休憩やリフレッシュをしながら、体調に気をつけて頑張ってください。陰ながら応援しています。



人間健康学部 スポーツ健康学科 4年生

福留 千春（上越教育大学大学院発達支援教育実践研究コース学校ヘルスケア領域（宮崎県））（宮崎県立宮崎大宮高等学校出身）

私はこの度、上越教育大学発達支援教育実践研究コース学校ヘルスケア領域に合格しました。志望のきっかけは、今年度4月の養護実習です。これまでの学びを活かし実習を行う中で養護教諭になりたいという気持ちが更に高まりました。しかし同時に、現場の先生方や生徒と接する中で知識や経験の不足を痛感しました。私は心と身体の両面から健康支援ができる養護教諭になりたいと考えており、大学院に行き大学での学びを更に発展させ、実践力を身に付けたいと考え志望しました。受験準備としては、願書・志望理由書の作成、面接練習等を行いました。具体的には、大学院のパンフレット等から情報を収集し、過去に受験された先輩方やゼミ担当の先生よりご指導を頂き、願書等を作成しました。面接については、本大学の先生方や先輩方にアドバイスを頂き、志望理由や大学院で研究したいこと等をまとめ準備をしました。以上の内容が少しでも大学院進学を考えている後輩の皆様の参考になれば幸いです。

